

03 児玉駅周辺 の賑わい創出

児玉ターミナル 2024 を開催！

今年も JR 東日本の皆さんと協力しながら、高校生たちは駅周辺を活用した賑わい創出イベント「児玉ターミナル 2024」の開催に向け、ワークショップやフィールドワークに取り組みました。

当日 (10/20) は児玉駅周辺の魅力を知ってもらうために「謎解きスタンプラリー」



04 スポーツ の推進

関わってくれた方

田中 邦治さん

市グラウンドゴルフ協会 前会長

高校生にもグラウンドゴルフを体験してもらい、覚えが

よく、教えがいがありました。

ニュー・スポーツの参考になったのであれば、うれしいです。

今回の体験をきっかけに、若い人にもグラウンドゴルフに興味を持ってもらいたいですね。

それぞれ取り組んだテーマは違えど、高校生たちはまちの賑わい創出について真剣に考え、そして実際にまちづくりの一助を担ってくれました。

プログラムをとおして見えた高校生の熱意は、まちの活気や賑わいにつながっています。

02 無人駅に再び賑わいを

無人駅となった児玉駅周辺を「高校生のエネルギーで活気を取り戻したい！」と JR 東日本と協力し、駅周辺で賑わい創出イベントを実施した昨年度。地元の方たちや参加した高校生からの要望もあり、今年度も引き続き多くの方が楽しめるイベント開催に向け、皆でアイデアを出し合いました。



等を企画。同日開催の「児玉商工まつり」と合わせて、児玉駅周辺を回遊しながら楽しめるイベントとして、多くの方が参加しました。また、普段はシャッターが閉じたままとなっている旧改札窓口を開け、景品交換所として活用。訪れた地元の方たちは、シャッターが開いていた往時の懐かしさを感じていました。

関わってくれた方

飯塚 孝志さん

児玉商工会 事務局長

児玉駅周辺を高校生が実際に歩き、関わってくれたことで「高校生と交流できてよかった」という声も聞かれます。

何かに挑戦するとき、「高校生である」というのは、有効な武器だと思います。この武器でもって、地域の活力となってほしいですね。



03 皆で楽しめるニュー・スポーツを創る

本庄市が掲げる「市民一人1スポーツ」の理念のもと、高校生ならではの発想で「みんなが楽しく運動し、健康に過ごせるようなニュー・スポーツ」を新たに創ることに。高校生たちは、幅広い年齢層に楽しんでもらえるようフィールドワーク等を経ながら競技作りに試行錯誤しました。

高校生考案のユー・スポーツ「ビパルフ」&「BB (バンブボール)」フィールドワークやワークショップを経て、まず考案されたのがビリヤードとバターゴルフをかけ合わせた「ビパルフ」。コーナーから外にボールを押し出すことで得点となり最終得点で競います。

また、「BB (バンブボール)」は、参加者が転がり落ちてくるボールをめがけてボールを投げ、ゴールを阻止するゲーム。



この2つのスポーツはスポレクフェスタ、合同文化祭の場で披露され、間口が広いながらも奥深い競技性に、参加者は熱中して楽しんでいました。

「考え方次第で誰でもスポーツを楽しめる」。この取組をとおして、高校生は誰もが健康に過ごしていくために不可欠なスポーツへの間口を広げてくれました。

地域の特性や魅力などを市民や行政とともに考え、探究・発信する「地域連携プログラム」。高校生らしいアイデアで、地域のために奔走しました。

01 地域連携プログラム

「福祉」をより身近に考えてもらう

福祉の推進には、地域の理解や協力が必要です。そのためには、少しでも「福祉」を身近に捉えてもらえるようにすることが大切と考えた高校生たち。自分たちには何ができるのかを考え、どのように伝えていくのがよいか、真剣に考えました。



劇で「福祉」の大切さを PR！

今回のプロジェクトでは、「おじいちゃん・おばあちゃんの毎日を支える福祉」をテーマに「高齢者福祉」に注目。

ワークショップやフィールドワークをとおしてどのような困りごとがあるのかを聞き、調べ、その解決方法を探りました。



行きついたのは寸劇。合同文化祭当日に「リプレイス〜助け合い〜」と題し劇を発表し、来場者向けに「助け合い」の大切さをわかりやすく伝えました。

どうしても固く捉えがちなテーマである「福祉」。しかし、高校生なりに親しみやすく伝えることで、観劇した方はより身近に「福祉」について考えることができました。

関わってくれた方

福田 浩二さん

本庄市社会福祉協議会

七高祭のような場合は、まちの人が関わることで、新しい魅力を発見できるなど、多くの可能性を秘めていると感じました。

そこに福祉の視点も取り入れることで、誰もが心地よく過ごせる、温かい地域になっていくのではないかと思います。



私たちが捉えた児玉の素敵な魅力

学校生活の中だけでは、里山をはじめとした地域の魅力に気付けない高校生も多い。そうした中で高校生たちは、フィールドワークをとおしてそこで暮らす方と関わりながら、その魅力を実感！高校生ならではのアイデアで、捉えた魅力をどのように発信していくのが良いか、考えました。

児玉の魅力を集めたアートとパンフレットを作成！

魅力を発信するために、まずは地域を知りたい！ということで実施したフィールドワークをとおして、地元の方たちと関わりながら魅力を実感した高校生たち。

その際に、地元の方の笑顔や美しい風景を目の当たりにした高校生たちは、それ自体を地域の魅力と捉え、撮影した写



真を使ったアートの展示と、パンフレットを作成し、合同文化祭で発表することとしました。

当日は、フィールドワークを通じてつながった地元の方もワークショップを行うなど、ブースは訪れた方で大盛況。高校生の捉えた児玉の魅力は、訪れた方に確実に届いていました。



関わってくれた方

片桐 正富さん

二松菴 元店主

わたしたちの住んでいる地域は過疎化が進み、若い世代が少なくなっています。

こうした中で高校生が地域に関わってくれるのはありがたいですね。

ぜひ、今後も高校生の豊かな発想をいかして、地域の魅力発信の担い手になってほしいです。

